

# 「第26回森林（もり）は友達！作文コンクール」 受賞者決定！

関東森林管理局東京事務所

「森林（もり）は友達！作文コンクール」は、茨城県と埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県に所在する森林管理署等が行った森林教室等に参加した小学4～6年生を対象に行っています。体験を通じて感じたことを作文にし、森林・林業への理解や関心を高めることを目的として、一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所が構成する「森林作文コンクール実行委員会」が、平成9年から毎年行っており、今年で26回目を迎え、総参加者数は31,000人を超えました。

気候変動や持続可能な循環型社会に注目が集まっているなか、森林・林業の重要性が認識されてきていることもあり、今回は過去最高の27の参加団体と2,071人の参加者がありました。

一次審査、二次審査を通過し最終審査対象となった204作品の中から、2月10日にwebで開催された審査委員会において、最優秀賞ほか入賞作品44点を決定しました。

最優秀賞（林野庁長官賞）は、相模女子大学小学部4年生の一戸紗代さんが受賞しました。「森林の未来のために今」と題して、森林の役割に深く考えたことがなかった自分が、森林教室で森林の大事さに気づき、今から森林の未来のために自分ができることをちょっとずつでもやって行こうという気持ちをつづった作文でした。

その他、簡単に切れるかと思って挑戦した丸太切りが思ったより大変で達成感がすごかったという作文。動物や昆虫のくらしの跡をガイドさんに説明してもらい、教科書には書いてない自然の仕組みを知ったという作文。学校林活動を通じて林業という仕事を知り、自然を守りながら共に生きていく大切さに気づいたという作文、などが受賞しました。いずれも、自分の言葉で森林教室を通じて学んだことを表現した力作ぞろいでした。



参加賞の木製温度計



江坂所長から表彰状の授与  
おめでとうございます！



Webでの審査委員会

今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、表彰式を行うことができませんでした。このため、最優秀賞（林野庁長官賞）などを受賞した児童が在籍している相模女子大学小学部には、江坂東京事務所長が訪れ、直接、受賞者へ賞状と副賞を授与しました。また、この他の受賞者へは、学校へ賞状などを送り、各学校で表彰していただきました。

令和5年度も、この作文コンクールを開催する予定です。新型コロナウイルス感染症のまん延状況が落ち着いてきましたので、制限なく森林教室や林業体験などに参加し、新たな発見・体験と友達との思い出をつくり、多くの児童に作文コンクールに参加していただきたいと考えています。